資料６

吾妻山火山防災マップ

2019年改訂版
福島市

作成の目的

吾妻山は、過去に噴火を繰り返してきた活火山です。この火山防災マップは、吾妻山の過去約7000年間の噴火に関する調査をもとに、今後吾妻山が噴火した場合に、火山災害が及ぶ可能性のある区域を示しています。

吾妻山で想定される噴火について、多くの方々に知って頂くとともに、各家庭はもとより町内会単位で組織されている自主防災組織や、観光施設をはじめ関係機関、企業等での防災対策に役立てて頂くことを目的としています。

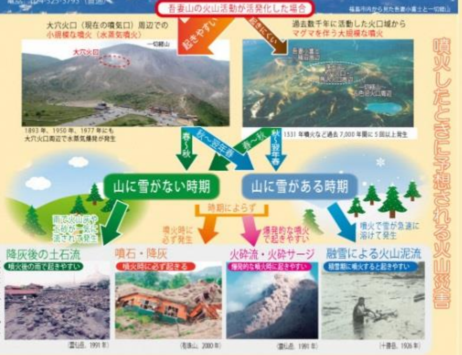
吾妻小富士
大穴火口
一切経山

福島市内から見た吾妻小富士と一切経山

噴火警戒レベルや火山の異常等に関する連絡先
福島地方気象台
電話　024-534-0321

このマップに関するお問い合わせ先
福島市役所 危機管理室
電話　024-525-3793（直通）

発　　行　福島市、吾妻山火山防災協議会　2019年●月発行
資料提供　国土交通省、気象庁、(国研)産業技術総合研究所、島原市、上富良野町、宇井忠英、伊藤英之、DEITz(株)
この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の○○○○○○○○を複製したものである。（承認番号　令○○情複、第○○○号）


吾妻山の火山活動が活発化した場合
起きやすい
起きにくい
大穴火口（現在の噴気口）周辺での
小規模な噴火（水蒸気噴火）
一切経山
大穴火口
過去数千年に活動した火口域から
マグマを伴う大規模な噴火
吾妻小富士・桶沼周辺
大穴火口・燕沢火口周辺
一切経山・五色沼火口周辺
春～秋
秋～翌年春
春～秋
秋～翌年春
山に雪がない時期
山に雪がある時期
時期によらず
雨で火山灰や土砂が一気に流されて発生
噴火時に必ず発生
爆発的な噴火で起きやすい
噴火で雪が急速に溶けて発生
注意すべき現象
降灰後の土石流
噴火後の雨で起きやすい
噴石・降灰
噴火時に必ず起きる
火砕流・火砕サージ
爆発的な噴火時に起きやすい
融雪による火山泥流
積雪期に噴火すると起きやすい
（雲仙岳，1991年）
（有珠山，2000年）
（雲仙岳，1991年）
（十勝岳，1926年）

1893年、1950年、1977年にも
大穴火口周辺で水蒸気爆発が発生

1331年噴火など過去7,000年間に5回以上発生

噴火したときに予想される火山災害

もう少し簡単に示したほうが良いか

火山現象の主な用語

普段から注意

● **火山ガス**

地下深部のマグマに溶けているガス成分がマグマから分離して地上に噴出したものです。噴火していないときでも火山ガスの放出が見られます。火山ガスの成分は、水蒸気に加え、二酸化硫黄（SO_2）、硫化水素（H_2S）、二酸化炭素（CO_2）などを含みます。特に、ぜん息の持病がある方、心臓が弱い方などは発作を起こし危険な状態になることもありますので、注意が必要です。

火山でガス臭を感じたら

1. ガスが溜まりやすい低地や窪地をさけて、風上や高台に向かって離れてください。
2. 火山ガス成分は水に溶けやすいため、ハンカチやタオルを濡らして口や鼻を覆うようにしてください。

噴火現象

● **水蒸気噴火**

地下深部で地下水がマグマ等の熱で温められて水蒸気となり一気に爆発する現象です。爆発に伴って火口から火山灰や噴石（火山弾）などが放出されます。

● **マグマ水蒸気噴火**

地下水などが地下深部から上昇してきたマグマに直接接触して起きる現象です。一般に、水蒸気噴火よりも大きく激しい爆発が起きやすいです。

雲仙岳，1991年
火山灰（降っている様子）

噴火時に降ってくる

● **火山灰（火山礫・火山岩塊）**

火山噴火により火口から吹き上げられるマグマや岩石の破片、鉱物などからなります。大きな噴火では火口から 100km 以上遠方まで到達します。噴火口の近くでは厚く積もり、森林や農地、建物を覆ってしまいます。

火山灰よりも大きいサイズの放出物で、直径 2～64mm のものを火山礫、64mm 以上を火山岩塊と呼びます。

火山灰（拡大写真）
角ばった石やガラス質の破片、鉱物などからなる。

火山灰が降ってきたら

1. 外出する場合は、マスクやゴーグル、濡らしたタオルなどで喉や目を守りましょう。ぜん息や気管支炎の症状がある方は特に注意が必要です。
2. 建物の窓やドアをしっかり閉めて室内に火山灰が入らないようにしましょう。
3. 火山灰が積もると滑りやすくなるため、車のブレーキが利きにくくなります。スピードを出さずに走るようにしましょう。
4. 車のガラスが火山灰で傷つくのを防ぐため、多めの水やウォッシャー液で洗い流しましょう。

● **噴石や火山弾**

火口から弾道軌道を描いて落下する噴石（岩塊や火山弾）は数 km 程度先まで到達します（このマップでは他火山事例を参考に 4 km 程度と想定しました。）

吾妻山の 1893（明治 26）年の噴火では、火口付近を調査していた技師２名が噴石にあたり死亡しました。

火山弾（噴石）
吾妻小富士の登山道沿いにみられる 40cm 程度の噴石。

噴火のすぐ後に流れてくる

● **土石流（降灰後の土石流）**

降雨時に雨水や渓流の流水が土砂や流木と混じって流れ下る現象。噴火時には、斜面に積もった火山灰が雨水の地面への浸透を妨げるため少量の降雨でも土石流が発生しやすくなります。

降灰後の土石流
火山灰が山の斜面に積もると、少量の雨でも発生しやすい。

● **火山泥流（土石流と併せて「ラハール」と呼ぶこともあります）**

火山灰などの細かい土砂や流木を取り込んだ泥水の流れです。泥流に取り込んだ土砂が水と一体になって流れるため、通常の水よりも密度が大きくなり破壊力も強くなります。吾妻山のように積雪の多い火山で冬に噴火が起きると、噴出物の熱で火口周辺の雪が急速に溶けて融雪による火山泥流が発生しやすくなります。

融雪による火山泥流は、積雪の量や噴出物の熱量によって発生する量が大きく変化します。

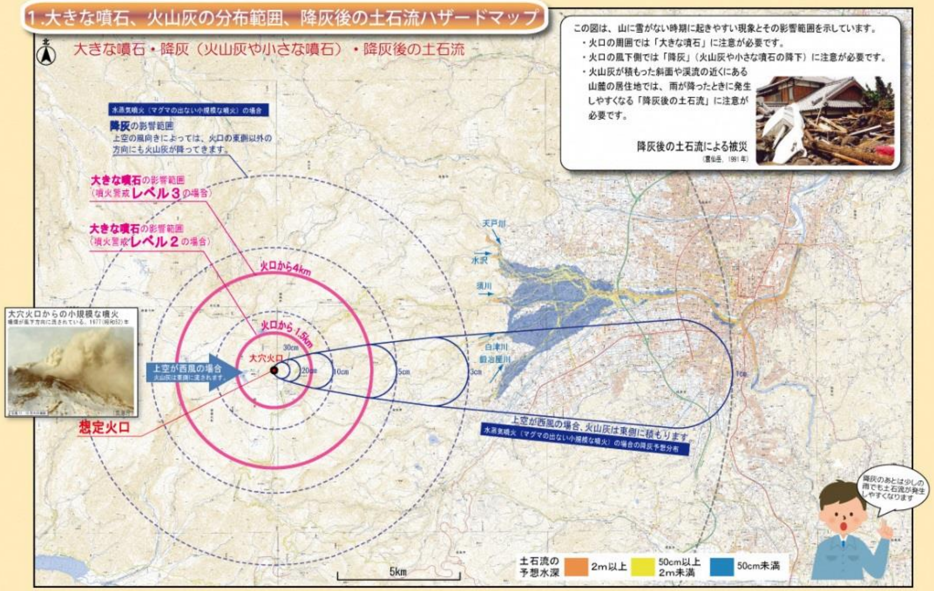
● **火砕流・火砕サージ**

火口から高温の火山灰や火山礫・岩塊と火山ガスが混じって、斜面や渓流を高速で流れ下る現象です。火砕流のうち、火山ガス成分が多く、流れながら周囲に拡がりやすい部分を火砕サージと呼びます。破壊力が大きく、火砕流・火砕サージが流れる範囲は建物などが破壊されます。雲仙岳（普賢岳）の 1991（平成 3）年噴火では、火砕流によって 43 名以上の方が亡くなりました。

火山泥流
噴火の熱で火口周辺の雪が融けて発生。広範囲に氾濫。

主に水蒸気噴火によって発生しやすい現象

1.大きな噴石、火山灰の分布範囲、降灰後の土石流ハザードマップ


大きな噴石・降灰（火山灰や小さな噴石）・降灰後の土石流
水蒸気噴火（マグマの出ない小規模な噴火）の場合
降灰の影響範囲
上空の風向きによっては、火口の東側以外の方向にも火山灰が降ってきます。
大きな噴石の影響範囲（噴火警戒レベル３の場合）
大きな噴石の影響範囲（噴火警戒レベル２の場合）
火口から4km
火口から1.5km
大穴火口
30cm
20cm
10cm
5cm
3cm
1cm
上空が西風の場合
火山灰は東側に流されます。
想定火口
天戸川
水沢
須川
白津川
鍛冶屋川
上空が西風の場合、火山灰は東側に積もります
水蒸気噴火（マグマの出ない小規模な噴火）の場合の降灰予想分布
降灰のあとは少しの雨でも土石流が発生しやすくなります
5km
土石流の予想水深
2m以上
50cm以上2m未満
50cm未満

大穴火口からの小規模な噴火
噴煙が風下方向に流されている。1977（昭和52）年

この図は、山に雪がない時期に起きやすい現象とその影響範囲を示しています。
- 火口の周囲では「大きな噴石」に注意が必要です。
- 火口の風下側では「降灰」（火山灰や小さな噴石の降下）に注意が必要です。
- 火山灰が積もった斜面や渓流の近くにある山麓の居住地では、雨が降ったときに発生しやすくなる「降灰後の土石流」に注意が必要です。

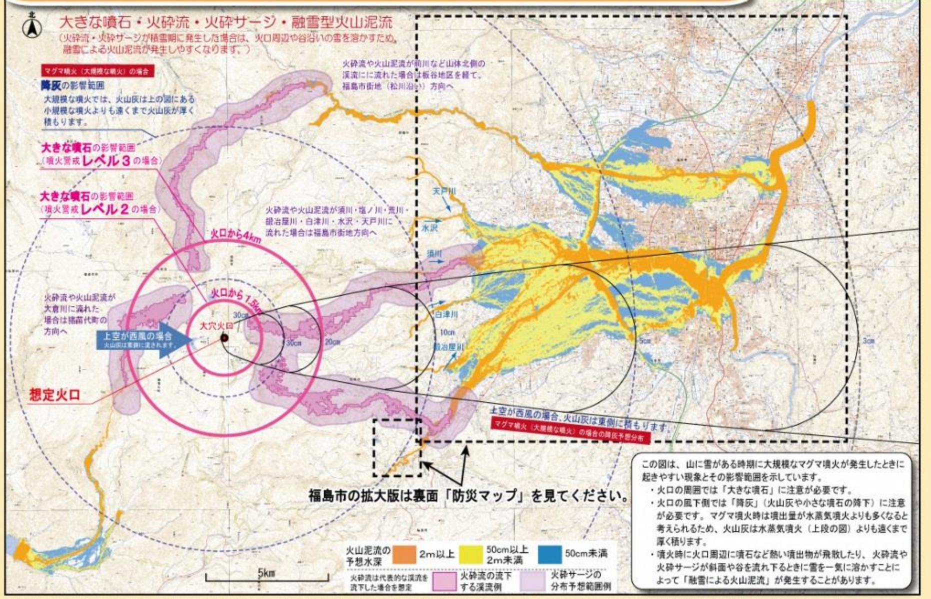
降灰後の土石流による被災
（雲仙岳，1991年）

噴石（大きな噴石）は、噴火警戒レベル2及びレベル3で設定されている範囲を示しています（レベル2は火口から 1.5km であり、これは 1983 年の噴火時に発生した噴石の飛散距離と同程度）。
降灰は、吾妻山の過去約 7 千年間の活動の中から、1893 年の噴火規模の水蒸気噴火が発生した場合の予想区域図を示しています（上空の風向きは西風の場合を想定）。
吾妻山の上空の風は、西北西～西南西からの風が卓越しています。そのため降灰後の土石流は、吾妻山の山体斜面の東側（主に福島市方向）に降灰が堆積した場合を想定して、火山灰が堆積した渓流から発生する降雨による土石流の予想区域図を示しています（各渓流毎の予想区域図を合成）。

主にマグマ噴火によって発生しやすい現象

2.大きな噴石、火山灰の分布範囲、火砕流・火砕サージ、融雪による火山泥流ハザードマップ

●地名・渓流名等を追記する
●降灰は大小2規模があるため、上段図に小規模、下段図に大規模の予想範囲を記載


大きな噴石・火砕流・火砕サージ・融雪型火山泥流
（火砕流・火砕サージが積雪期に発生した場合は、火口周辺や谷沿いの雪を溶かすため、融雪による火山泥流が発生しやすくなります。）
マグマ噴火（大規模な噴火）の場合
降灰の影響範囲
大規模な噴火では、火山灰は上の図にある小規模な噴火よりも遠くまで火山灰が厚く積もります。
大きな噴石の影響範囲（噴火警戒レベル３の場合）
大きな噴石の影響範囲（噴火警戒レベル２の場合）
火砕流や火山泥流が荒川など山体北側の渓流にに流れた場合は板谷地区を経て、福島市街地（松川沿い）方向へ
火砕流や火山泥流が須川・塩ノ川・荒川・鍛冶屋川・白津川・水沢・天戸川に流れた場合は福島市街地方向へ
火砕流や火山泥流が大倉川に流れた場合は猪苗代町の方向へ
火口から4km
火口から1.5km
大穴火口
30cm
20cm
10cm
5cm
3cm
天戸川
水沢
須川
白津川
鍛冶屋川
上空が西風の場合
火山灰は東側に流されます。
想定火口
上空が西風の場合、火山灰は東側に積もります
マグマ噴火（大規模な噴火）の場合の降灰予想分布
5km
火山泥流の予想水深
2m以上
50cm以上2m未満
50cm未満
火砕流は代表的な渓流を流下した場合を想定
火砕流の流下する渓流例
火砕サージの分布予想範囲例

福島市の拡大版は裏面「防災マップ」を見てください。

この図は、山に雪がある時期に大規模なマグマ噴火が発生したときに起きやすい現象とその影響範囲を示しています。
- 火口の周囲では「大きな噴石」に注意が必要です。
- 火口の風下側では「降灰」（火山灰や小さな噴石の降下）に注意が必要です。マグマ噴火時は噴出量が水蒸気噴火よりも多くなると考えられるため、火山灰は水蒸気噴火（上段の図）よりも遠くまで厚く積もります。
- 噴火時に火口周辺に噴石など熱い噴出物が飛散したり、火砕流や火砕サージが斜面や谷を流れ下るときに雪を一気に溶かすことによって「融雪による火山泥流」が発生することがあります。

火砕流・火砕サージは、吾妻山の過去約 7 千年間の活動の中から、想定される最大規模のマグマ噴火により火砕流が発生した場合の予想区域図を示しています（4つの渓流に流下したときの予想区域図を合成）。
融雪による火山泥流は、同じく過去約 7 千年間の活動の中から、想定される最大規模のマグマ噴火が雪の多い時期に発生した場合の予想区域図を示しています（融雪による火山泥流の影響範囲は、想定火口および想定火口の北寄り、南寄りの3パターンで噴火したときの予想区域図を合成）。

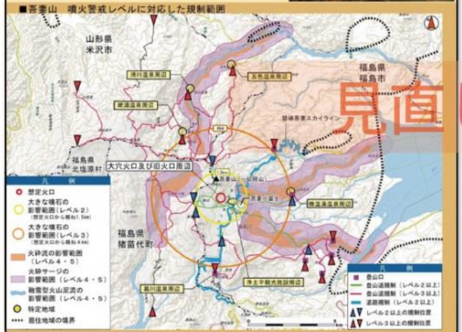
吾妻山の噴火警戒レベル

—火山災害から身を守るために—

- ●噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル１から５の５段階に区分したものです。
- ●各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています（レベル５は「避難」、レベル４は「避難準備」、レベル３は「入山規制」、レベル２は「火口周辺規制」、レベル１は「活火山であることに留意」）。
- ●吾妻山の噴火警戒レベルは、噴火警報等でお伝えします。

一切経山を東側上空から撮影

■吾妻山　噴火警戒レベルに対応した規制範囲


山形県
米沢市
福島県
福島市
福島県
北塩原村
福島県
猪苗代町
滑川温泉周辺
五色温泉周辺
姥湯温泉周辺
磐梯吾妻スカイライン
大穴火口及び旧火口周辺
吾妻山（一切経山）
吾妻小富士
野地温泉周辺
浄土平観光施設周辺
幕川温泉周辺
4km
1.5km
凡例
想定火口
大きな噴石の影響範囲（レベル２）（想定火口から概ね1.5km）
大きな噴石の影響範囲（レベル３）（想定火口から概ね４km）
火砕流の影響範囲（レベル４・５）
火砕サージの影響範囲（レベル４・５）
融雪型火山泥流の影響範囲（レベル４・５）
特定地域
居住地域の境界
凡例
登山口
登山道規制（レベル２以上）
登山道規制（レベル３以上）
道路規制（レベル２以上）
レベル２以上の規制位置
レベル３以上の規制位置
0
5km

見直し案

この図は、国土地理院「地理院地図」を使用して作成しています。
※図中の特定地域とは、居住地域よりも吾妻山の想定火口に近い所に位置する集客施設が含まれる地域を指します。居住地域より早期に避難等の対応が必要になることがあります。
■吾妻山の噴火警戒レベルは、吾妻山火山防災協議会において協議、作成されました。各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については、福島市、猪苗代町、北塩原村、米沢市にお問い合わせください。

問い合わせ先
仙台管区気象台　地域火山監視・警報センター
TEL 022-297-8164　https://www.jma-net.go.jp/sendai
■福島地方気象台　TEL 024-534-2162
https://www.jma-net.go.jp/fukushima/
■山形地方気象台　TEL 023-622-2262
https://www.jma-net.go.jp/yamagata/

気象庁
Japan Meteorological Agency

気象庁が作成した「吾妻山の噴火警戒レベル」リーフレットを掲載しています。

平成19年12月1日運用開始
令和元年×月×日改定

吾妻小富士から撮影

吾妻山の噴火警戒レベル

種別	名称	対象範囲	レベル（キーワード）	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
特別警報	噴火警報（居住地域）又は噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5（避難）	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流が居住地域に到達、あるいは切迫している。 過去事例 有史以降の事例なし
			4（避難準備）	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での避難準備等が必要。 要配慮者及び特定地域の避難等が必要。	●火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流が居住地域に影響を及ぼす噴火の可能性。 過去事例 有史以降の事例なし
警報	噴火警報（火口周辺）又は火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3（入山規制）	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。 登山禁止・入山規制など危険な地域への立入規制等。 状況に応じて特定地域の避難、要配慮者の避難準備等が必要。	●火口から概ね４km以内に、大きな噴石が飛散、火砕流・火砕サージが流下するような噴火の発生、またはその可能性。 火口から居住地域近くまで、融雪型火山泥流が到達、またはその可能性。 過去事例 1893年の噴火：噴石が火口から約1.5kmまで飛散
		火口周辺	2（火口周辺規制）	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。 火口周辺への立入規制等。 特定地域の避難等が必要。	●火口から概ね1.5km以内に大きな噴石が飛散するような噴火の発生、またはその可能性。 過去事例 2014年～2016年の活動：噴気、熱、地震活動の活発化 1977年の噴火：火口周辺に降灰 1966年の活動：身体に感じる地震を含む地震活動の活発化 1950年の噴火：噴石が火口から約1.2kmまで飛散
予報	噴火予報	火口内等	1（活火山であることに留意）	火山活動は静穏。 火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。	状況に応じて火口周辺への立入規制、特定地域の避難準備等が必要。	●火山活動は静穏。 ●状況により火口周辺に影響する程度の火山灰や火山ガス等の噴出。

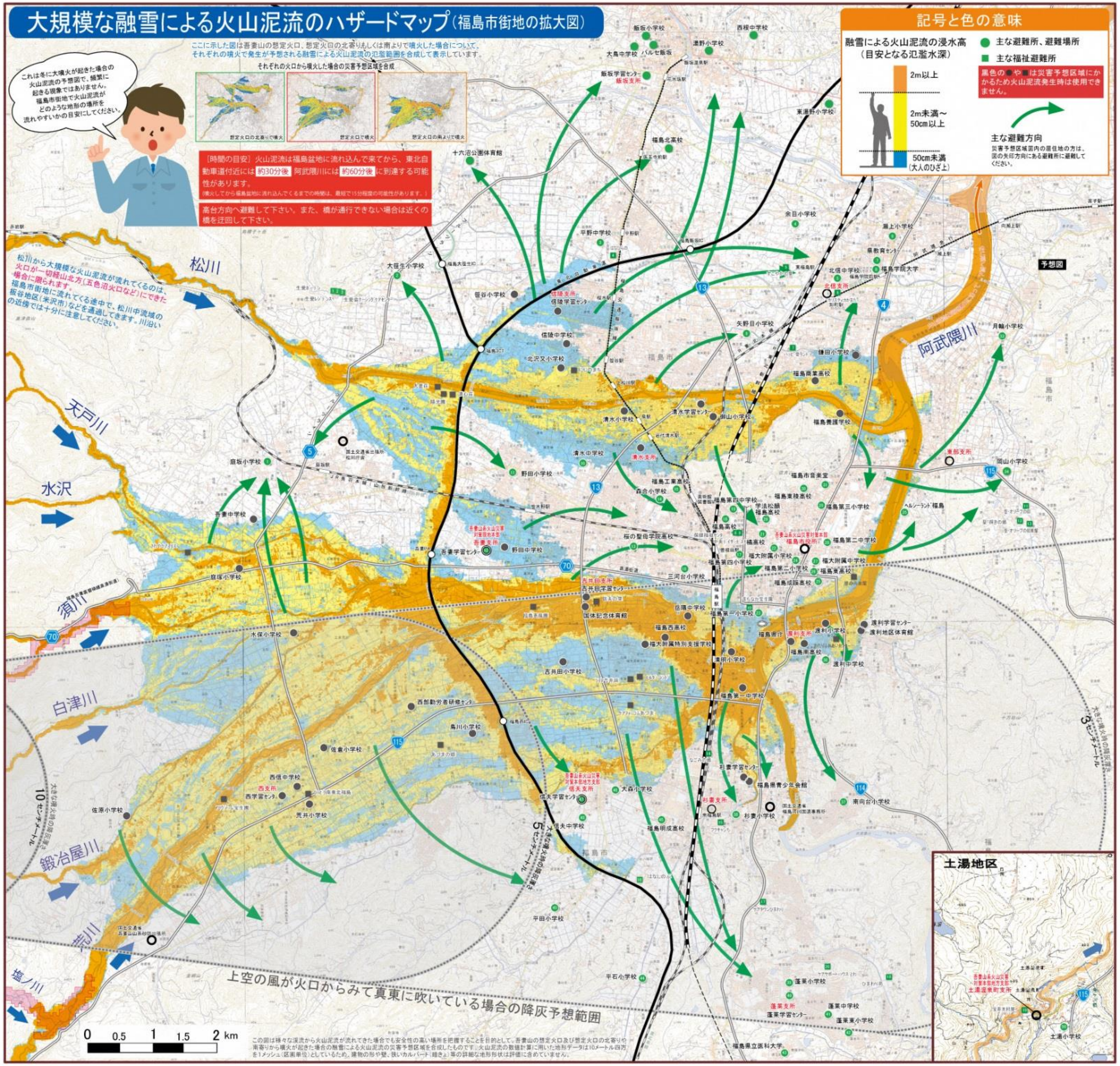
※特定地域とは、居住地域よりも吾妻山の想定火口に近い所に位置する集客施設が含まれる地域を指す。居住地域より早期に避難等の対応が必要になることがある。
※融雪型火山泥流は積雪期のみ想定される。
※ここでいう火口とは、「大穴火口及び旧火口周辺」（大穴火口と燕沢火口列）をいう。
※吾妻小富士、五色沼など、想定火口以外で噴火が発生した場合は、直ちに新たな噴火警戒レベルを火山防災協議会で設定する。

■各レベルにおける具体的な規制範囲等については各市町の地域防災計画等で定められています。
■最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧になれます。
https://www.jma.go.jp/jma/index.html

気象庁
Japan Meteorological Agency
令和元年×月

気象庁が作成した「吾妻山の噴火警戒レベル」リーフレットを掲載しています。

大規模な融雪による火山泥流のハザードマップ（福島市街地の拡大図）



ここに示した図は吾妻山の想定火口、想定火口の北寄りもしくは南よりで噴火した場合について、それぞれの噴火で発生が予想される融雪による火山泥流の氾濫範囲を合成して表示しています。

それぞれの火口から噴火した場合の災害予想区域を合成

これは冬に大噴火が起きた場合の火山泥流の予想図で、頻繁に起きる現象ではありません。福島市街地で火山泥流がどのような地形の場所を流れやすいかの目安にしてください。

［時間の目安］火山泥流は福島盆地に流れ込んで来てから、東北自動車道付近には**約30分後** 阿武隈川には**約60分後**に到達する可能性があります。
（噴火してから福島盆地に流れ込んでくるまでの時間は、最短で15分程度の可能性があります。）

高台方向へ避難して下さい。また、橋が通行できない場合は近くの橋を迂回して下さい。

松川から大規模な火山泥流が流れてくるのは、火口が一切経山北方（五色沼火口など）にできた場合に限られます。福島市街地に流れてくる途中で、松川中流域の板谷地区（米沢市）などを通過してきます。川沿いの近傍では十分に注意してください。

記号と色の意味

融雪による火山泥流の浸水高
（目安となる氾濫水深）

- 2m以上
- 2m未満～50cm以上
- 50cm未満（大人のひざ上）

● 主な避難所、避難場所

■ 主な福祉避難所

黒色の●や■は災害予想区域にかかるため火山泥流発生時は使用できません。

主な避難方向
災害予想区域図内の居住地の方は、図の矢印方向にある避難所に避難してください。

上空の風が火口からみて真東に吹いている場合の降灰予想範囲

この図は様々な渓流から火山泥流が流れてきた場合でも安全性の高い場所を把握することを目的として、吾妻山の想定火口及び想定火口の北寄りや南寄りから噴火が起きた場合の融雪による火山泥流の災害予想区域を合成したものです。火山泥流の数値計算に用いた地形データは10メートル四方を1メッシュ（区画単位）としているため、建物の形や壁、狭いカルバート（暗きょ）等の詳細な地形形状は評価に含めていません。

避難所リスト

以下の避難所は、融雪による火山泥流の災害予想区域にかかっていない場所を示しています。

●避難所

避難所のうち、施設の大きい学校などを示しています。

連番	避難所名	連番	避難所名	連番	避難所名
1	庭坂小学校	19	福島第四中学校	37	南向台小学校
2	大笹生小学校	20	学法松韻福島高校	38	杉妻小学校
3	平野中学校	21	橘高校	39	蓬莱小学校
4	余目小学校	22	福大附属小学校	40	蓬莱学習センター
5	北信中学校	23	福島第一小学校	41	蓬莱中学校
6	瀬上小学校	24	福島第二小学校	42	蓬莱東小学校
7	県教育センター	25	福島成蹊高校	43	福島県立医科大学
8	福島学院大学	26	福島東高校	44	平石小学校
9	矢野目小学校	27	福大附属中学校	45	福島明成高校
10	清水中学校	28	福島第二中学校	46	大森小学校
11	野田小学校	29	福島第三小学校	47	信夫学習センター
12	吾妻学習センター	30	福島東稜高校	48	信夫中学校
13	桜の聖母学院高校	31	福島市音楽堂	49	平田小学校
14	森合小学校	32	福島第三中学校	50	土湯小学校
15	福島工業高校	33	月輪小学校	51	福島県消防学校
16	三河台小学校	34	岡山小学校		
17	福島第四小学校	35	ヘルシーランド福島		
18	福島高校	36	渡利中学校		

地区	図の外側にある避難所（火山災害時に安全性が高い避難所）
金谷川	福島大学、金谷川小学校、南体育館
松川	松川小学校、松陵中学校、松川地区体育館、松川学習センター、まつかわ西幼稚園、水原小学校
飯野	飯野小学校、青木小学校、大久保小学校、飯野中学校、飯野学習センター、飯野学習センター青木分館・大久保分館・明治分館、飯野地区体育館、飯野地域福祉センター、飯野幼稚園
立子山	立子山小学校、立子山中学校、立子山自然の家

避難所の部分は作業中

■福祉避難所

福祉避難所は災害時要援護者を受け入れるため、特別な準備（設備、器材、介助など）がされている避難所です。（8 9は拠点となる福祉避難所です。）

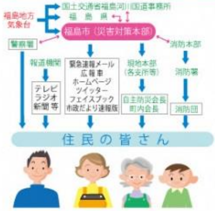
連番	避難所名	連番	避難所名
1	生愛ガーデン	11	聖・オリーブの郷
2	生愛レジデンス	12	聖・輝きの郷
3	生愛会ナーシングケアセンター	13	聖・オリーブの郷 東館
4	はなひらの	14	なごみの郷
5	すこやかの里	15	フクチャンち
6	ホリスティカかまた	16	はなしのぶ
7	ハッピー愛ランド	17	ケアタウンひまわり
8	保健福祉センター	18	ひまわり苑
9	中央デイサービスセンター	19	宝寿木村屋
10	まちなか宝生園	20	ケアサポートハウス とわ

図の外側にある福祉避難所

福島県飯坂ホーム（飯坂町）
愛日荘園（大波）
ロングライフ（松川町）
みず和の郷（松川町水原）
緑光園（飯坂町湯野）、万葉の郷（松川町）
リブレ松川、けやきの村（飯坂町中野）
青松苑（飯坂町中野）
静心園（飯坂町中野）
福島おおなみ学園（大波）

福島市の指定する避難所等について、より詳細にご覧になりたい方は福島市役所（危機管理室）や最寄りの福島市支所にお尋ねいただくか、市のホームページ（http://www.city.fukushima.fukushima.jp/ 各課のページ▸危機管理室▸まちの避難マップ）をご参照ください。

噴火や災害対策情報の連絡系統、避難に関する情報



情報の種類

避難準備・高齢者等避難開始

（噴火警戒レベル4（避難準備）が発表される場合や、噴火警戒レベル3（入山規制）の段階で必要と認められる場合に発令）

避難するのに時間がかかる要援護者（高齢者や障害者など）は、指定された避難場所への避難行動を開始してください。要援護者の避難を支援する人は支援行動を開始してください。

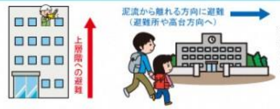
避難勧告・避難指示（緊急）

（噴火警戒レベル5（避難）が発表される場合などに発令）

避難対象地域内（火山泥流の予想区域図内）のすべての住民は、安全な地域の避難場所への避難を開始してください。避難途中の住民は、避難をただちに完了してください。

まだ避難していない住民は、ただちに避難を開始してください。もし、避難する余裕がないときは、建物の高所に移るなど生命を守る最低限の行動をとってください。

命を守る最低限の行動を


上層階への避難
泥流から離れる方向に避難
（避難所や高台方向へ）

火山泥流が流下・氾濫しはじめた状況で、建物倒壊の危険がないと判断される場合は、自宅や近隣建物の2階以上へ緊急一時避難し、救助を待つようにしてください。

吾妻山に関係する情報の入手先

◆吾妻山の状況を知りたい、ライブカメラの画像を見たい
火山活動状況や現在の噴火警戒レベルについては、気象庁ホームページをご覧ください。

- 気象庁 http://www.jma.go.jp/jma/index.html
  ※現在のライブカメラ画像は、気象庁や福島河川国道事務所のホームページで様子を見ることができます。
- 福島河川国道事務所 http://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/

◆吾妻山に関する防災情報、登山情報、観光情報等を知りたい

- 福島市役所 http://www.city.fukushima.fukushima.jp/
- (一社)福島市観光コンベンション協会 http://www.f-kankou.jp/
- 浄土平ビジターセンター http://www.bes.or.jp/joudo/vc/
- 福島市浄土平天文台 http://www14.plala.or.jp/jao/

気象庁
福島河川国道事務所
福島市役所
(一社)福島市観光コンベンション協会
浄土平天文台
浄土平ビジターセンター